

ハローワークで新卒者の就職支援を進めています！

ハローワークでは、将来の日本を担う新卒者が安定した仕事に就けるよう、新卒者・既卒者の就職支援を進めています。



～新卒者(就職活動中の学生・既卒者)への支援～

○全都道府県に新卒者等の就職を支援する「新卒応援ハローワーク」を設置

全都道府県に、就職活動中の学生・既卒者の皆様が利用しやすい専門のハローワークとして、「新卒応援ハローワーク」(全国57カ所)を設置しています。お気軽にご利用ください。

【実績】 平成24年度はのべ 71.0万人が利用し、 9.4万人が就職決定
平成25年度はのべ 70.0万人が利用し、 10.0万人が就職決定
平成26年度はのべ **64.1万人が利用し、 10.5万人が就職決定**



★主な支援メニュー

- ・全国ネットワークによる豊富な求人情報の提供、職業紹介、中小企業とのマッチング、求人開拓、求職活動に役立つ各種セミナー
- ・就職までの一貫した担当者制による個別支援(求人情報の提供、就職活動の進め方、エントリーシートの添削、面接指導等)
- ・臨床心理士による心理的サポート

※ 新卒応援ハローワークの所在地・連絡先はこちら→ <http://www.mhlw.go.jp/topics/2010/01/tp0127-2/dl/5a.pdf>

○「ジョブサポーター」によるきめ細かな支援

「学卒ジョブサポーター」を配置し、きめ細かな支援を行っています。

【実績】 平成24年度は19.4万人の就職が決定 (のべ相談件数113万件)
平成25年度は20.0万人の就職が決定 (のべ相談件数111万件)
平成26年度は **19.9万人の就職が決定** (のべ相談件数103万件)

★大学・大学生等への主な支援内容

大学等と連携した出張相談・就職支援セミナー、新卒応援ハローワークにおいて就職活動中の学生・既卒者への個別支援(エントリーシートの作成相談、面接指導、応募先の選定など)及び求人開拓等を実施

★高校・高校生への主な支援内容

学校と密接に連携し、求人情報の提供、職業適性検査や各種ガイダンス・セミナー、求人開拓、未内定者に対する一貫した個別支援(職業相談、応募先の選定、面接指導等)等を実施



ジョブサポーターの支援による就職事例をご紹介します



公務員志望のため民間の就職活動をしてこなかったAさん。2月になって新卒応援ハローワークに来所した。

精神的に落ち込んでいたが、民間企業に就職する場合の志望先の選定するために、経歴の振り返りを丁寧に行ったところ、アルバイトでリーダーを務めたことによる自信や、地域発展につながる仕事への意欲など、前向きな考えを引き出すことができ、最終的には自分の能力を活かせると感じられる職場に就職することができた。

電気工学科のDさん。大学時代からコミュニケーションに不安を抱え留年や休学を経験し、就職活動は行ってこなかったが、父親同席で新卒応援ハローワークに来所した。

相談窓口では、集中力がなく相談内容にも興味を示さないDさんとは対照的に、父親は大手企業での電気関係業務に就職してほしいという焦りが見られた。

その後何回か相談を繰り返し、Dさんの態度から読み取れる、Dさんと父親の意識のギャップについてジョブサポーターが父親と意見交換を行ったり、Dさんに対してきめ細かな指導を行ったりした。

その過程で、父親はDさんの抱えるコミュニケーションの問題に気づき、本人の意志を尊重しながら見守る姿勢が変わっていった。Dさんはその後、自発的に応募を決めた求人へ何度か粘り強く応募し、その結果、電気設備関連の企業に就職することができた。

大学の専攻科目と関連性のない職種を希望していたGさん。「就職活動に出遅れ、学校に来ている求人に希望の職種がなさそうなので相談したい」と、大学内での出張相談の予約が入った。

ジョブサポーターがすぐに対応し、希望に合致する求人を選定しGさんに情報提供した。業界や職種の職業理解を図り、本人のモチベーションを高めるための自己PRセミナーや模擬面接を経て、応募。不安や焦りを払拭しながら自信をつけてもらい面接に臨んだ結果、内定を得ることができた。その企業からも、いい人を紹介してもらったという声をいただいた。

保育・福祉の専門学校でのBさん。学内での出張就活セミナーを機に、学校から個別支援をしてほしいとの依頼があった。

Bさんは卒業後家族と共にC県に転居するため、転居先で就職したいが、土地勘がなく求人の動向もわからないとのこと。転居先市内と周辺の就職可能範囲を調査するとともに、C県の新卒応援ハローワークへ問い合わせで求人動向を聞き取った。これらの情報から求人情報を選びBさんに提供。また、応募書類の準備や面接のため現地へ出向くなど今後の動きに関するアドバイスを行った。また、転居先では車の移動が不可欠となると思われることから、今のうちに合宿で運転免許を取得することを勧めた。

Bさんはこれらのアドバイスを踏まえ積極的に準備をし面接に臨んだ結果、C県内の障害者支援施設の支援員に内定した

文系大学生のEさんは当初、就職する意義を見いだせず、漠然と営業職を考えていた。個別相談時に、技術科の授業や製造アルバイトを通して、妥協せず良い物を作りたいたいというこだわりを持つことなどがわかり、製造業の適性を発見。

製造業を行う事業所への訪問の際、経営者から直接、「求める人材」について「文系理系関係なく社員は活躍している、モノづくりの意欲と適性を重視している」と聞いたことや、事業所訪問を行ったことで、職場環境や雰囲気を知ることができ、製造業に従事するという方向性に確信を持つことができた。

その結果、適性検査選考でも「努力家で製造に向いている」との評価を得て、製造業の内定を得ることができた。

大学4年生のFさんは、高校・大学と野球部の活動中心の学生生活で、8月まで全く就職活動をしていなかった。このためFさんの母親が心配し、新卒応援ハローワークに来所したため、利用方法やイベント・セミナー情報を案内し、本人の来所を勧めた。

その後本人が来所したが、10月まで部活動があり会社見学や説明会に時間を取ることが難しく、応募に踏み切れない様子だった。

このため若者応援宣言企業の中から、企業が求める人材像や仕事内容がFさんの希望と一致するF社を選定し、ミニ面接会を企画した。

ジョブサポーターからFさんの現況や野球で得たチームワークの大切さ、フットワークの良さ、体力等の強みを事前に事業所担当者に説明し、事業所の求める人材とFさんの条件がマッチし早期内定につながった。